

北薩感染症情報

2019年第50週(12月9日～12月15日)

【問い合わせ先】 〒895-0041 薩摩川内市隈之城町228番地1
 北薩地域振興局保健福祉環境部(川薩保健所)健康企画課
 電話 0996-23-3165 FAX 0996-20-2127
 E-メール kita-kenkou-shippei@pref.kagoshima.lg.jp

川薩・出水保健所における定点報告疾患

◎: 警報発令中 ○: 注意報発令中

定点種別	対象疾患	警報レベル			注意報レベル 基準値	川薩保健所管内					出水保健所管内				
		開始 基準値	終息 基準値	定点報告数		前週 報告数 (人)	今週 報告数 (人)	定点 報告数	前週 からの 増減	警報 注意報	前週 報告数 (人)	今週 報告数 (人)	定点 報告数	前週 からの 増減	警報 注意報
内科・小児科 定点	インフルエンザ	30.0	10.0	10.0	28	75	10.71	↗	○	65	76	15.20	↗	○	
小児科定点	RS	-	-	-	-	-	-	→	-	-	-	-	→	-	
	咽頭結膜熱	3.0	1.0	-	4	3	0.75	↓	-	11	12	4.00	↗	◎	
	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	8.0	4.0	-	19	38	9.50	↗	◎	11	10	3.33	↓	-	
	感染性胃腸炎	20.0	12.0	-	18	17	4.25	↓	-	7	6	2.00	↓	-	
	水痘	2.0	1.0	1.0	1	-	-	↓	-	1	1	0.33	→	-	
	手足口病	5.0	2.0	-	2	1	0.25	↓	-	3	3	1.00	→	-	
	伝染性紅斑	2.0	1.0	-	2	6	1.50	↗	-	1	-	-	↓	-	
	突発性発疹	-	-	-	1	1	0.25	→	-	-	-	-	→	-	
	ヘルパンギーナ	6.0	2.0	-	4	2	0.50	↓	-	-	-	-	→	-	
	流行性耳下腺炎	6.0	2.0	3.0	-	-	-	→	-	1	-	-	↓	-	
眼科定点	急性出血性結膜炎	1.0	0.1	-	-	-	-	→	-	/	/	/	/	/	
	流行性角結膜炎	8.0	4.0	-	1	-	-	↓	-	/	/	/	/	/	
基幹定点	細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	→	-	-	-	-	→	-	
	無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	→	-	-	-	-	→	-	
	マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	→	-	1	-	-	↓	-	
	クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	→	-	-	-	-	→	-	
	感染性胃腸炎 病原体がロタウイルスに限る	-	-	-	-	-	-	→	-	-	-	-	→	-	
インフルエンザ 入院報告	-	-	-	1	1	/	→	-	-	-	/	/	-		
報告数合計		-	-	-	81	144	/	↗	/	101	108	/	↗	/	

<注意報・警報>

- ・川薩保健所管内 「A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の流行発生警報」, 「インフルエンザ 流行発生注意報」発令
- ・出水保健所管内 「咽頭結膜熱 流行発生警報」, 「インフルエンザ 流行発生注意報」いずれも2週連続発令

<全数報告>

- ・川薩保健所管内 なし
- ・出水保健所管内 なし

<インフルエンザ様疾患による学級閉鎖等>

- ・川薩保健所管内 なし
- ・出水保健所管内 学級閉鎖(小学校1, 中学校2), 学年閉鎖(小学校1)

○ 第50週のトピックス

- ・川薩保健所管内に新たに「A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 流行発生警報」が発令されました
- ・川薩保健所管内に今シーズン2度目の「インフルエンザ 流行発生注意報」が発令されました
- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の予防について
- ・インフルエンザの予防について

(警報)

○咽頭結膜熱について

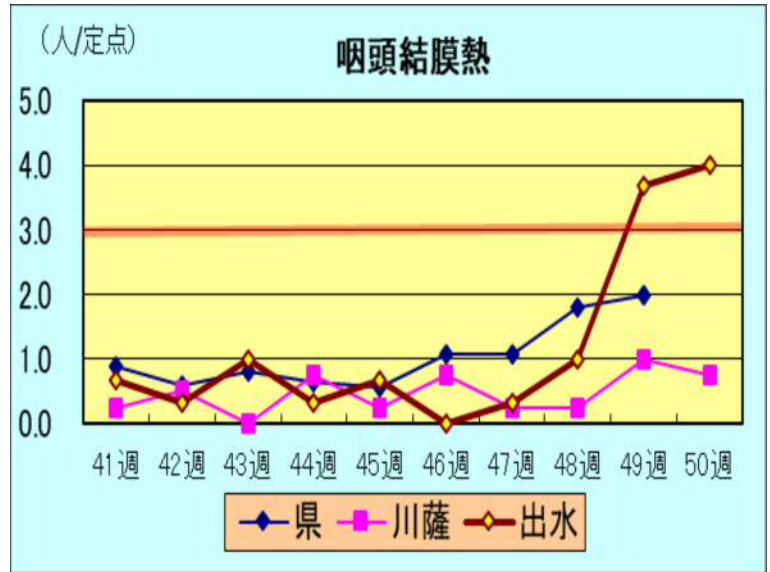
【警報開始基準値 3.0 警報終息基準値 1.0】

(第50週は川薩・出水のみ掲載)

第50週の咽頭結膜熱の発生状況は、川薩保健所管内からは、3名(定点当たり報告数 0.75)の報告がありました。

出水保健所管内からは、**12名**(定点当たり報告数 **4.00**)の報告がありました。

2週連続で流行発生警報です。



○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎について

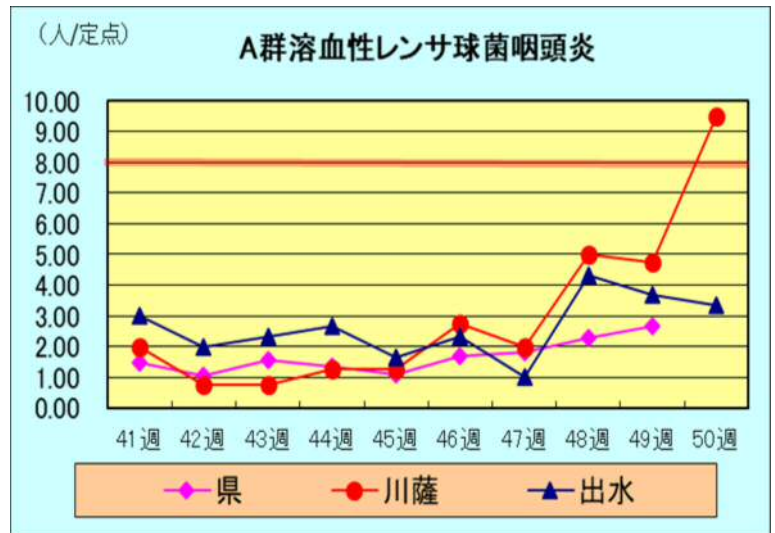
【警報開始基準値 8.0 警報終息基準値 4.0】

(第50週は川薩・出水のみ掲載)

第50週のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の発生状況は、川薩保健所管内からは、**38名**(定点当たり報告数 **9.50**)の報告がありました。

流行発生警報基準値(8.00)を超えました。

出水保健所管内からは、10名(定点当たり報告数 3.33)の報告がありました。



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎を予防しよう

1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、上気道炎や化膿性皮膚感染症などの原因菌としてよく見られるグラム陽性球菌による感染症で、どの年齢層でも起こりますが、特に学童期の小児に多い病気です。

また、人と人の接触機会が多いときに起こりやすいため、家庭、学校などの集団では特に注意が必要です。



2 症状

2～5日の潜伏期間の後、突然の発熱と全身倦怠感、咽頭痛で始まり、しばしば嘔吐を伴います。

合併症として、肺炎、髄膜炎、敗血症などの化膿性疾患、あるいはリウマチ熱、急性糸球体腎炎などの非化膿性疾患を起こすこともあります。

3 感染経路

本疾患は通常、患者との接触を介して伝播し、ヒトとヒトとの接触の機会が増加する時に起こりやすいとされています。

4 予防方法

- ・手洗いやうがいを励行する。
- ・感染者との密接な接触をさける。



5 学校保健安全法での取り扱い

明確には定められてはいませんが、条件によっては第3種の感染症の「その他の感染症」として、病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまでの期間の出席停止の措置が必要と考えられます。

(注意報)

○ インフルエンザ

【警報開始基準値 30.0】 【注意報開始基準値 10.0】 警報終息基準値 10.0】

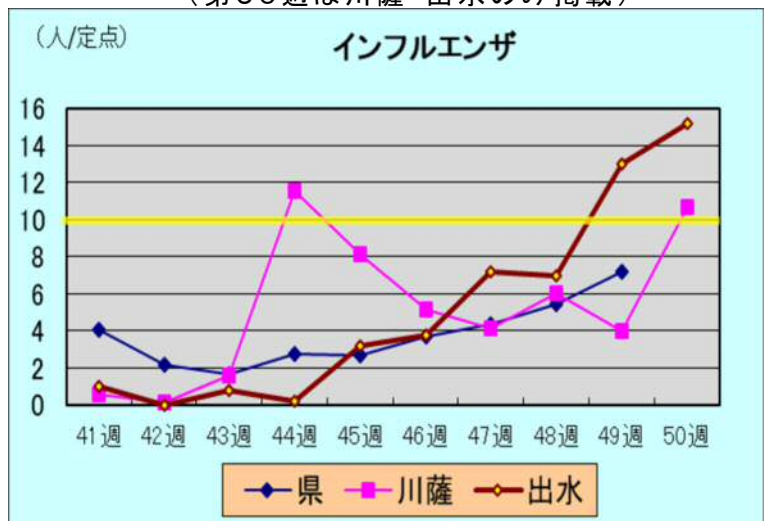
(第50週は川薩・出水のみ掲載)

第50週のインフルエンザの発生状況は、川薩保健所管内からは、75名(定点当たり報告数 10.71)の報告がありました。

流行発生注意報基準値(10.00)を超えました。

出水保健所管内からは76名(定点当たり報告数 15.20)の報告がありました。

下記の内容を参考に予防に努めてください。



インフルエンザを予防しよう

1 インフルエンザの主な症状

38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、全身倦怠感等の症状が比較的急速に現れる。

子どもではまれに急性脳症を、高齢者や免疫力の低下している方では二次性の肺炎を伴う等、重症になることがある。



2 インフルエンザの予防のために

① 流行前のワクチン接種

感染後に発病する可能性を低減させ、また、重症化を防止する

② 外出後の手洗い等

流水・石けんによりウイルスを物理的に除去。アルコール製剤による手指消毒も効果的

③ 適度な湿度の保持

空気が乾燥すると気道粘膜の防御機能が低下。加湿器を使って50～60%を保持

④ 十分な休養とバランスのとれた栄養摂取

体の抵抗力を高めるために、十分な休養とバランスのとれた栄養摂取を日頃から心がける

⑤ 人混みや繁華街への外出を控える

インフルエンザが流行してきたら、特に高齢者や基礎疾患のある方、妊婦、体調の悪い方、睡眠不足の方は人混みや繁華街への外出は控える
やむを得ず外出して人混みに入る可能性がある場合には不織布製マスクを着用する

3 インフルエンザにかかってしまったら

～ まずは安静にし、休養をとりましょう ～

① 咳エチケットを守りましょう

インフルエンザの主な感染経路は咳やくしゃみの際に口から発生される小さな水滴（飛沫）です。

感染者であっても、全く症状のない（不顕性感染）例や、感冒様症状のみでインフルエンザに感染していることを本人も気づかない軽症例も少なくありません。



したがって、周囲の人にうつさないよう、次のことなどを守るよう心がけてください。

- ・咳やくしゃみを他の人に向けて発しないこと
- ・不織布製マスクをすること。マスクがない場合は、ティッシュや腕の内側などで口と鼻を覆い、顔を他人に向けないこと
- ・鼻汁・痰などを含んだティッシュはすぐにゴミ袋に捨て、手のひらで咳やくしゃみを受け止めた時はすぐに手を洗うこと

② 症状がなくなっても、人にうつす恐れあり

インフルエンザ発症前日から発症後3～7日間は、鼻やのどからウイルスを排出すると言われていています。無理をして学校や職場などに行かないようにしましょう。

現在、学校保健安全法では、「発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日（幼児にあっては、3日）を経過するまで」をインフルエンザによる出席停止期間としています。